

SEKIJUKU project

連携・連続講演授業 「夕塾 第2期」報告

富山大学芸術文化学部教授 伊藤 裕夫



地域連携授業「夕塾」は、学生と地域の方々が一緒になって受講し、語らうことで、これからの地域社会のあり方を考え、よりよい地域づくりに向けた取り組みの発端となることを目指すものとして、平成18年からスタートした。

第2期である平成19年度は、前年度の夕塾を発展させ、テーマを「まち再考 学ぶ・探す・つくる」とし、講師のお話を聞く（学ぶ）だけでなく、実際にまちに出てまちの魅力や問題点を発掘し（探す）、そしてそれらをもとに、市民・学生・教員が協力し合って、何らかの成果にまとめあげて発表する（つくる）といった展開を図った。

具体的には、「学ぶ」では、「まちづくり」の活動や研究を行っている講師を招き、県内外の事例の紹介やディスカッションなどを、「探す」では、街の魅力を再発見するため、実際にまちに出て調査を行ったりし、そして「つくる」では、「学ぶ」「探す」で得た知識や情報をもとに、夕塾として1つの成果として何らかのアウトプットの作成・発表を、教員・学生と市民と一緒にやって行うことを目指した。

そのため第2期では、「塾生」という形で学生・市民からそれぞれ10数名、コアになる参加者を募集し、「探す」（地域探索）や「つくる」（成果のまとめ）などで一定の役割を担ってもらい、結果として大学と地域の連携をより緊密なものとしていくことも考慮した。

以下、平成19年度に開催された9回の夕塾の概要を報告する。

第1回夕塾「学ぶ」

◆日時：平成19年5月28日（月）午後6時30分～8時

◆会場：富山大学芸術文化学部（高岡キャンパス）

コミュニケーションルーム

（以下、「探す」として街に出た2回以外は同じ会場であるので略す）

◆テーマ：「まち再考 岩瀬のまちづくりから何を学ぶか」

◆ゲスト講師：榊田隆一郎氏（岩瀬まちづくり株式会社代表、（株）榊田酒造店社長）

（ホスト教員：武山良三 芸術文化学部教授）

◆参加者：約70名

◆概要：これからのまちのあり方を考えていくにあたり、まず県内の事例として、富山市岩瀬浜のまちづくりについて、その中心的役割を担ってこられた、岩瀬まちづくり株式会社の榊田隆一郎さんをゲストに開催。平成16年に岩瀬まちづくり株式会社設立後、富山市岩瀬地区に現存する民家や土蔵約40軒を買い上げ、伝統建築の外観を残した町の再開発に取り組んでいる活動をお聞きし、文化的な資源の活かし方や市民参加の仕組みなどについて話し合った。



伊藤裕夫



榎田隆一郎氏（左）と前田学部長（右）



伝統的町並みが今も残る吉久

第2回夕塾「学ぶ」

◆日時：平成19年6月26日（火）午後6時30分～8時

◆テーマ：「まち再考 アートNPOのチャレンジ」

◆ゲスト講師：小見 純一氏（前橋芸術週間代表、フリッツ・アートセンター主宰）

（ホスト教員：伊藤裕夫 芸術文化学部教授）

◆参加者：約50名

◆概要：近年「芸術と社会をつなぐ」を旗印に、シャッター街化した中心市街地などでアートプロジェクトを核にしたまち再生が各地で始まっている。こうした事例の一つとして、群馬県前橋市で活動されている小見純一氏から、地域の人々との関係性の再生を目的に始めた様々な活動、特に同市敷島公園内に開設されたカフェ「フリッツ・アートセンター」や、アートプロジェクト「前橋芸術週間」などについてお話をうかがい、アートNPOのチャレンジについて学んだ。

第3回夕塾「探す」

◆日時：平成19年7月28日（土）午後3時～6時

◆テーマ：「まち再考 不思議いっぱい、ワンダフル高岡を探索する」

◆巡回コース

Aコース：千保川周辺、金屋を取り巻く寺社を廻る

Bコース：吉久と伏木、その関係を探る

Cコース：昭和の高岡、レトロなまちをロケする

◆参加者：約30名

◆概要：市民塾生の、山本和代子さん（Aコース）、大菅正博さん（Bコース）、太田浩司さん（Cコース）に案内人になっていただき、3つのコースに分かれて高岡のまちを探索した。高岡の今と昔を訪ねつつ、今まで気づかなかったまちの魅力と問題点を、写真やビデオなどで発掘し、歴史や文化財への理解を深めるとともに、高岡の持つ不思議な魅力を探った。





第4回夕塾「学ぶ」

◆日時：平成19年9月25日（火）午後6時30分～8時

◆ゲスト講師：愛山達也氏（金沢倶楽部「Clubism」編集長）

（ホスト教員：沖和宏 芸術文化学部講師、横山天心 芸術文化学部助教）

◆テーマ：「まち再考 まちづくりとしてのタウン誌の可能性」

◆参加者：約50名

◆概要：近年、フリーペーパーをはじめ地方都市においても様々なタウン誌が多数発行されるようになってきている。地域の魅力や特色を毎回発見し、編集して発信しているタウン誌は、その地域のまちや産業と密接な関係を持っている。そこで金沢のタウン誌「Clubism」の編集長である愛山達也氏から、まちの魅力をいかに編集するかという観点から、いまの町の様子がいきいきと表現することで、まちづくりにおけるタウン誌の可能性について学んだ。

第5回夕塾「学ぶ」

◆日時：平成19年10月30日（火）午後6時30分～8時

◆テーマ：「まち再考 まちと芸術——アートでチャレンジ」

◆ゲスト講師：五十嵐威暢氏（彫刻家・デザイナー）
（ホスト教員：伊東順二 芸術文化学部教授）

◆参加者：約50名

◆概要：世界に誇るデザイナーであり、彫刻家である五十嵐威暢氏から、氏の幅広い活動や、地元北海道滝川市における活動、特に「理想の田舎を作る」という趣旨で、芸術公園都市実現を目指して活動する「アートチャレンジ滝川」の活動などのお話を聞き、高岡におけるアートチャレンジをとともに考えた。

第6回夕塾「探す&学ぶ」

◆日時：平成19年11月29日（木）午後6時～8時

◆会場：ミュゼふくおかカメラ館（高岡市福岡町福岡新559番地）

◆テーマ：「まち再考 もう一つの高岡——雅楽と菅笠と鯉のまち福岡を知る」

◆ゲスト講師：高田哲氏（高岡市副市長）
（ホスト教員：伊藤裕夫 芸術文化学部教授）

◆参加者：約40名

◆概要：「探す」の第2回目の試みとして、市町村合併で高岡市になった旧福岡町で開催（未来観光戦略会議共催）。開会前に福岡町を散策するとともに、高岡市の福岡担当の高田哲副市長から福岡町の歴史、文化ならびに駅前再開発計画についてお話しいただき、地域活性化のためには若者が意見を出すことの大切さなどについて語り合い、これからの福岡のまちづくりについて考えた。

第7回夕塾「学ぶ」

◆日時：平成19年12月18日（火）午後6時半～8時

◆テーマ：「まち再考 アートを通した氷見再発見——ヒミング2007報告会」

◆ゲスト講師：中村政人氏（アーティスト、東京芸術大学美術学部准教授）

（ホスト教員：伊藤裕夫 芸術文化学部教授）

◆参加者：約30名

◆概要：「本物の氷見を探し出会いたい」という思いから始まったアートプロジェクト「ヒミング」について、企画の中心を担っている中村政人氏から、その狙いとして、住民自身が地元の魅力に気づいてもらうことという話をお聞きするとともに、学生たちが主体となって進めた「氷見サマーアートスクール」について学生サークルYATTONGAによる報告会を行ない、アートによるまちづくりについて考えた。



写真3点はいずれも氷見で開催されたヒミング

第8回夕塾「学ぶ」

- ◆日時：平成20年1月29日（火）午後6時半～8時
- ◆テーマ：「まち再考 デザイン雑感」
- ◆ゲスト講師：松永 真氏（グラフィックデザイナー）
（ホスト教員：前田一樹 芸術文化学部長）
- ◆参加者：約70名
- ◆概要：高岡市の広報ポスターや高岡市立美術館のマークのデザインや、クラフトコンペなどで高岡市にもなじみ深い、日本を代表するグラフィックデザイナーの松永真氏から、デザイナーの目から見た高岡のまちについて、特に人との出会いの重要性など、様々な視点から腹藏のないご意見や提案をいただいた。

第9回夕塾「つくる」

- ◆日時：平成20年2月20日（水）午後6時半～8時
- ◆テーマ：「まち再考 不思議いっぱい、ワンダフル高岡“七不思議”」
- ◆ゲスト：橘 慶一郎 高岡市長
発表者：富山大学芸術文化学部学生（夕塾塾生）
- ◆概要：第2期最終回の夕塾では、この1年間の夕塾を通して学生たちが市民と一緒に「学び、探した」高岡のまちの不思議な魅力を、橘慶一郎高岡市長にお出でいただき、プレゼンテーションした。学生は発見した高岡についてクイズ形式でとりあげ、普段見慣れないところに高岡の面白さがあることを提言、それに対し橘市長から、高岡の魅力の多さが逆に高岡の一言で言えない難しさを生んでいるというコメントをいただいた。

運営体制

- ◆塾長：前田一樹（芸術文化学部長）
- ◆総括プロデューサー：金子隆亮（K2クリエイション）
＊金子氏は、平成19年12月1日に逝去された。ここに謹んでお悔やみをもうしあげます。
- ◆共催：北日本新聞社
- ◆協力：高岡ケーブルネットワーク
- ◆運営：伊藤裕夫、横山天心、島添貴美子 ほか